

# ふるさと探訪



〔20〕

大島町の民家の倉庫からこのほど、古い運送舟の一部と思える木板五枚が見つかった。市内の郷土史家らは、鉄道が発達する前の明治時代に活用されていた舟の部品と見ており、「当時の人々の生活の様子がうかがえる貴重な史料」と興味を深めている。

## 明治時代の高瀬舟

大島町の民家で木板が見つかる

まで米などの物資を運んでいたという。

## のどかに由良川を往来

### 鉄道などの発達で姿消えたが…

しかし、明治四十年の水害で舟一艘を失った。残る一艘もその後、鉄道などで

のどかに由良川を往来していた舟の部品と見ており、「当時の人々の生活の様子がうかがえる貴重な史料」と興味を深めている。

木板は、同町自治会長で

市議の大島喜葉さん(61)宅にあった。七月に老朽化していた倉庫を解体した

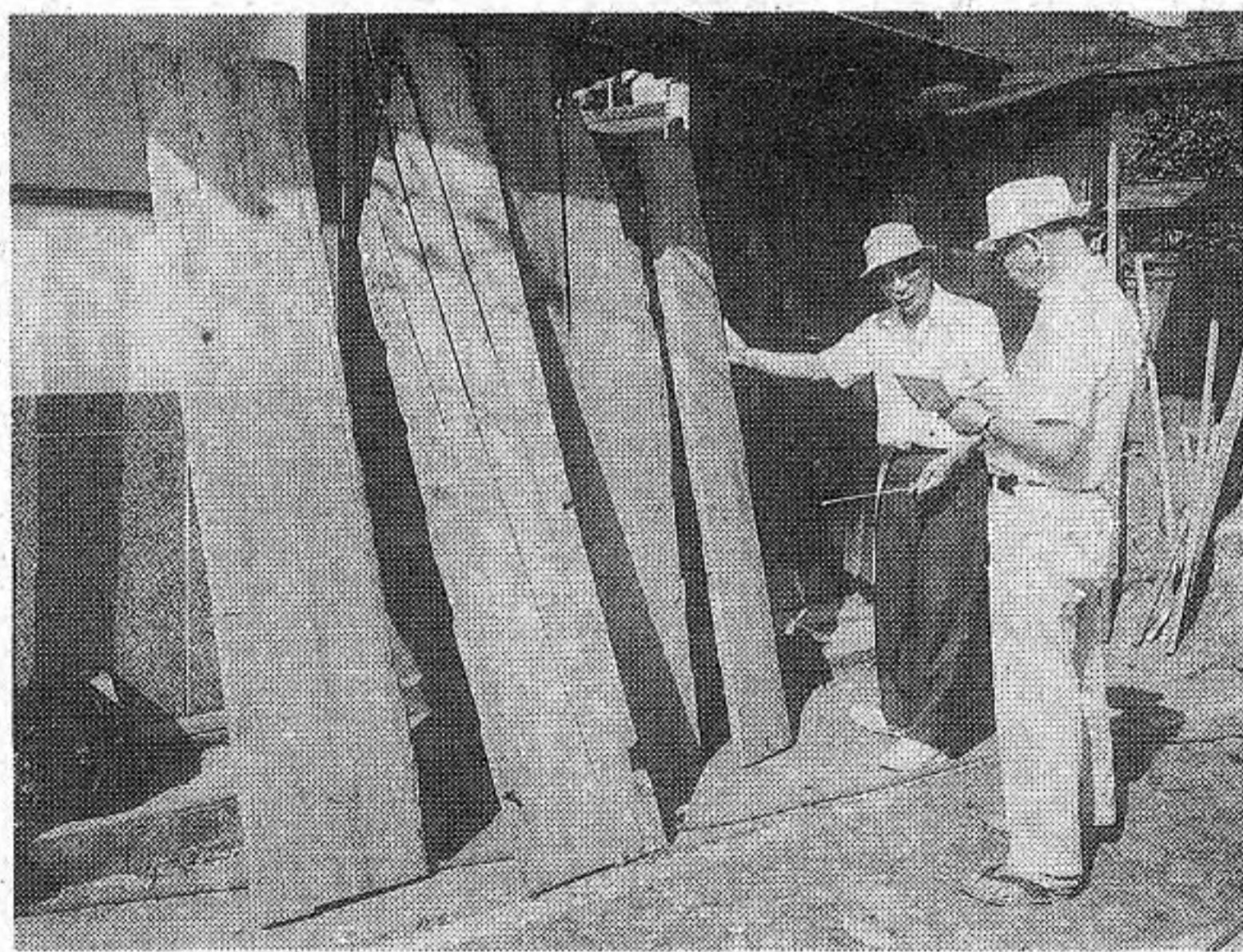
の梅原三郎会長(79)と山崎巖さん(70)が担当。五枚の板を組み合わせてみると舟の前方部の形ができた。板は底面と側面に使われていた部品のように、舟底が平らな高瀬舟と思えることが分かった。中筋村の村長や大島区長も務めるなど村の実力者だった市太郎さんは、事業家でもあった。二艘の舟を使って商売をし、由良川を下って由良(宮津市)まで米などの物資を運んでいたという。

で、厚さ二センチほど。幅は二十〜四十センチ余り。板の形を見ると、先が舟の前方部のようにとがった物があるほか、板と板をつなぎ止める金具が付いた板もあった。

梅原会長は、この高瀬舟に関する話を以前に古老(故人)から聞いたことがあった。それによると明治三十年代に大島さんの祖

陸上の交通機関の発達に伴ってしだいに使わなくなったため、分解して倉庫に保管していたようだ。梅原さんらは大島さん宅

### 全長7〜8メートルの荷物舟か



大島さん宅で見つかった高瀬舟の一部と思われる木板を調べる梅原会長(右)ら。大島町で

で見つかった舟の特徴を探るため、同史談会が昭和二十八年に発行した機関紙「綾部史談」の三十二号に掲載してある上野町出身の写真家、編集者でもある

アートディレクター、磯貝浩さん(54) 東京都が、中学二年の時にまとめた「由良川の川舟を探る」の記述を参考にした。

それによると高瀬舟は全長が四間から四間半(一間は約一・八メートル)ほどの大きさで、福知山市の川北や箬巻地区、加佐郡大江町の波美地区で多く見受けられたことが書いてある。川北地区では作業舟を意味したが、波美地区では「こぶね」と呼び、荷物舟だったとも記されている。

このことから市太郎さんが所有していた高瀬舟は全長が七、八間の荷物舟だったと考えられる。福知山市や大江町などで川舟とすれ違いながら、由良川を往来していた様子が目に浮かぶ。(高橋)